

## ボランティアの心

### 園児と手をつなぎ散歩

福原克巳（福祉1期・垂水区）

幼児期の成長、発達にともない、さまざまな〈つまずき・遅れ・障害〉がある子供たちの通園施設が灘区、長田区、垂水区の3か所にある。私はそのうちの一つ、垂水区の学園で散歩ボランティアを12年間していた。

「散歩とは遠足と同じように園外保育の一つ。夏の暑い時期を除いて毎週水曜、木曜に近くの公園に行きます。公園までの往復を目標に、子供たちの健康な体づくり、豊かな心づくり、往復の道筋で興味のあるものを見つけたり、眺めたり、生きた自然や社会にふれあい、お母さん以外の人と行動して社会生活を体験する」（同園の散歩ボランティアハンドブックから抜粋）

1回の散歩は2クラス（20人）。この散歩に私たちボランティアが園児と1対1で手をつないで付き添う。園児の大半は「言葉が遅い」「お友だちと遊べない」などの障害がある。ボランティアはボディランゲージ、身ぶり、手ぶりで接し、や

がて心を通じあうと、童謡、コマーシャルをいっしょに歌う。公園では、ボール遊び、ブランコの後押し、シャボン玉、滑り台などをやるが、時間はあっという間に過ぎてしまう。

時には「きょうのメニューはなに？」「デザートは？」などとおしゃべりしながら、給食までに園に帰る。

園では連絡帳に今日の感想を書き、保護者がそれを見て返事を書く。子供の成長記録でもある。

昨今は3世代同居が少ないので、おじいちゃん・おばあちゃんと手をつなぎ、散歩しながら、何かを伝え合うことは、子供たちにとっても良い体験になるだろう。私には孫かひ孫と散歩している感覚だ。

以上が〈散歩ボランティア〉のあらましである。KSC垂水会の活動として平成12年1月から始めた。11人でスタート、24人になったこともあるが、現在のメンバーは11人。

グループ〈わ〉でも、灘区や長田区で散歩ボランティアに取り組んではいかが。「子供たちと手をつなぎ、若さをもらい、実に楽しい。逆にボランティアをしてもらっている」というのが私の感想です。皆さんも機会があれば、チャレンジしてみてください。



### あっと驚く!?マジックの祭典

第10回マジックの祭典が11月24日午後、県民会館ホールで開かれ、ほぼ満席の300人が不思議ワールドに酔いしれました。

森田明朗委員長の挨拶のあと、現役やOB23組53人が華やかな衣装で次々と自慢のネタを披露。ハンカチやテープ・パラソル・花束が飛び出す伝統的なものから、人が消えるイリュージョン、お笑いとお品をからませた面白系、ユニークな芝居調など、盛りだくさんな内容に拍手・喝采が絶えず、大いに沸い

た3時間でした。親子連れも多く、小3の男児は「マジック大好き。人形が出てくるのが面白かった」と目を輝かせていました。

この大会は、OBのマジッククラブと現役のマジック同好会がお互いの技術を磨く場として毎年開いています。森田委員長は「奇術は喜術。自分でやる喜び、拍手をいただく喜びがある。この会もボランティアを続けて10年経って一区切りがついた。これからも社会のために役立つ活動をやっていきたい」と話していました。＝写真は自慢のネタを披露する会員

### 暗闇を体験するイベント

暗闇の中で視覚障害者と一緒に様々なシーンを体験し、コミュニケーションの大切さを考える「ダイアログ・イン・ザ・ダーク（DID）」という催しが3月中旬、しあわせの村で開催されます。これに先立って、「DIDとは何か」をPRする講演会が1月30日（水）午後1時からシルバーカレッジであり、参加者を募集しています。講師はダイアログ・ジャパン・ソサエティの志村季世恵氏。1年生の共通授業ですが、OB・市民の参加も歓迎します。問い合わせはカレッジ事務局（TEL743-8100）へ。